東京学芸大学　先端教育人材育成推進機構・外国人児童生徒教育推進ユニット　主催

2024「多様性が活きることばの教育実践」 第3回実践交流会

概　要

実施日・場所	2024 年11月9日(土)
参加者	参加者数:15 名
アンケート回収数	15件(100%)

研修資料について
教育・研修を目的とした場で参照資料としてのご提示に留めてください。部分的な切り取りや、加工はお控えください。また、本事業資料である旨を明示してご利用ください。

プログラム

1　講話「多様性が活きる学びのデザイン－実践交流の視点のために」

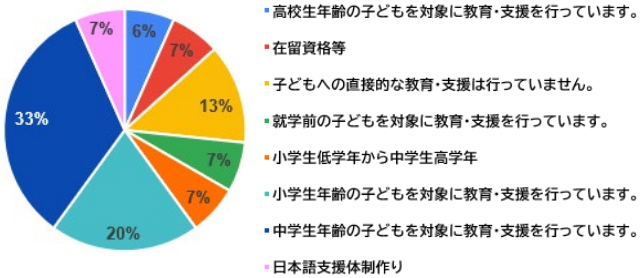
吉谷武志(東京学芸大学　名誉教授　・　NPO　ともに生きる街ふくおかの会　代表理事)

2　参加者同士の実践の交流

実践の紹介(以下の 3 点について、具体的な資料を示しながら)
1)取組(実践)の前の問題意識:子どもたち、あるいは教室の実態と設定した課題
2)取組の工夫:課題を解決するために具体的にはどのような工夫をしたか
3)結果:実施してみた結果、どうであったか

アンケートより

〈参加者の子どもの日本語教育への関わり〉



〈参加者の声〉

・学校での教材についての取り組みや母語との繋がりなど自分の実践でも活かせるようなことだけでなく、他の地域や学校でも同じような悩みを持っていることなど、参考になったことはたくさんありました。
・どの年齢の方にも、またどのタイミングで日本に来た方にも対応した支援があることを知り、心強く感じました。
・自分もやってみたいと思える実践がたくさんありました。また、高校での支援体制についても参考になりました！

研修企画者より

福岡での第3回実践交流会では、私たちの実践を振り返り、子どもの教科学習能力の育成やキャリア形成に向けて多様性が活きる新たな実践へとつなげていくことを目的に、交流を行いました。吉谷先生の講話では、主体(支援対象)の多様性を前提としつつも、そこにある共通性、例えば「学び」(学習活動、学校)に参加するための能力や対象の学校(社会)という場での参加(存在)様態については、認識するべきではないか、実践を支える共通の視点(様態)は、子ども(学習者)の「最善の利益」を保障することではないか、とのお話を頂きました。その後、交流のグランドルール:否定しない(よく聴く)・楽しく(笑う)・忖度しない(遠慮しない、言うべきことを言う)等を共有し交流。会場内4箇所で、各1名の方が実践報告、後の方は聞きたい所へ行き、質疑応答の後、いいと思ったところ等をカードに記入し報告者に渡す。これを6回繰り返しました。一人当たり、2回報告し、4名の方の報告を聞きました。最後に、各島で振り返りを行い、全体でシェアしました。「日々、教材を自分一人でつくるのは大変で共有できると良いなと思っており、実際に今日見せてもらい、いい教材を作られていると思いました。それらを活用すると良いなと思う一方で、改めて目の前の子どもは一人一人違い、それぞれの子どもにあった教材が必要であることにも気づかされました。」「日本語教育と国語教育(教科教育)をつなげること、子どもの教育への親の関りや教育方針の重要性に気づきました。保護者に在留資格について講義をする際に伝えます。」「グランドルールがあったおかげで、誰に対しても意見を伝えることができてよかったです。」等の感想の通り、実に多様な立場の方が参加してくださり、異なる視点と共通の視点を持ちつつ、和気あいあいと活発に交流が行われ、とても有意義な会となりました。